別紙第２号様式

2024-103

医学系研究に関する情報の公開について

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構　大阪労災病院
研究課題名*	抗リン脂質抗体の関連が疑われた chorea の一例
所属科*	脳卒中・脳神経内科
研究責任者*	由上　登志郎
研究実施期間	開始　西暦　2024 年　11 月　25 日　～ 終了　西暦　2025 年　5 月　24 日（予定）
対象疾患（予定症例数）	chorea　（　1　症例）
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自　西暦　2024 年 4 月 24 日　～ 至　西暦　2024 年 5 月 16 日
研究概要*	【背景】chorea は遺伝性、代謝性、自己免疫性、薬剤性などが要因で起こる不随意運動である。一方で、抗リン脂質症候群（APS）は抗リン脂質抗体が陽性で血栓症などを引き起こす自己免疫疾患であり、まれな神経症状として chorea が知られている。今回、動静脈血栓塞栓症の既往なく、片側舞踏運動にて発症し、抗リン脂質抗体の関連が疑われた症例を経験したため報告する。【症例】症例は 73 歳男性。自己免疫疾患や血栓塞栓症の既往はない。2 ヵ月前から右手足が勝手に動き、使いにくくなったため当院受診された。四肢に明らかな筋力低下はなく、右上下肢の遠位部優位に舞踏運動を認めた。頭部 MRI では脳血管障害の所見はなく、糖尿病・代謝性疾患を疑う異常は認めなかった。髄液・脳波検査では異常所見はなく、脳血流 SPECT では基底核の血流異常は認めなかった。亜急性の経過であり、自己免疫性疾患を念頭に血液検査を施行したところ、APTT は延長、ループスアンチコアグラント、抗カルジオリピン抗体、抗β2GPI 抗体は全て陽性であった。全身に明らかな血栓症を疑う所見は認めなかった。抗リン脂質抗体に関連した chorea と判断し、ステロイドパルス療法 1 コース施行した。不随意運動は徐々に軽快した。以降は症状再燃なく経過している。【結論】本症例は複数の抗リン脂質抗体が陽性であり、他の chorea を引き起こす疾患は疑わず、抗リン脂質抗体に関連した chorea と判断した。APS に関連した chorea のメカニズムは、局所微小血栓や免疫介在性機序が推定されており、ステロイド療法が有効な可能性がある。Chorea が APS の初発症状となることは稀ではあるが、chorea の精査時には抗リン脂質抗体を含めて幅広く検査をする必要がある。
倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	個人を特定できる情報を明らかにすることは行わない。
研究の問い合わせ先*	脳卒中・脳神経内科　由上　登志郎（PHS4192）

＊記入必須項目